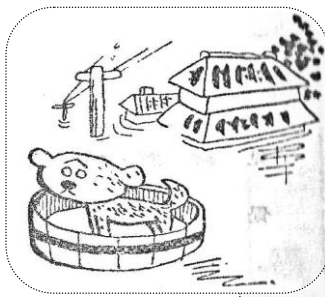
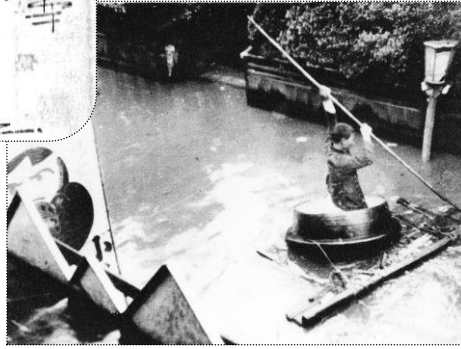


僕は整理係をやった。四時過ぎ加藤先生と買物に出掛けた。今日初めて船が一緒と与へられた。にぎり飯と水は給与されるが、然し副食物がない。このために副食物や菓子の方々からたのまれて買ひに行った。

夜は電気がこないといふので所々にローソクを立てたがしばらくして電灯がついたので急に夜が明けた様に明るくなった。夜食が来た。香の物、福神漬、しょうが等がついてゐたので一同大喜びで分配した。もう水はももまでにへった。

「大洪水」
 (『進修第42号』中の「1938年
 覚え書(5年高橋宏一)より」)



「大釜の渡し」栄町
 舟代わりにした大釜を操
 る子ども。(『むかしの写
 真土浦』より)

《沿革誌》「終日避難民見舞者続々来校生徒数班二分レ、職員及附近ノ罹災者ノ家へ手伝ニ行ク

避難者名簿、家族二百七十一、人員五百八十一名

菊田【真鍋】町長巡察ニ来ル」土浦中学の気象観測用雨量計は、この日までに440mmを記録しています。

7月2日(土)曇

《竹村》「今日は水は廊下で足首位になった。昼頃には床も現れた。此の分では大丈夫すぐに水はひくだらうと思つてゐた。」

午後父を真鍋に迎へに行つた。真鍋の^①新国道【旧国道6号。土浦一高前の道路】は坂の中頃まで水があつた。父がこないで帰つた。本通りは一番深くても、位でたいして深くなかつた。

役場の前はほゞ道が現れてゐた。野澤君に逢つた。先生方の手伝ひをしてゐるのださうだ。僕に同情して洋服をかしてやらうと言はれた。友人は実に有難いものだと思つた。

国道を歩いてかへつた。公会堂^②の前はもゝまでの深さで学校【土浦尋常高等小学校西校舎】の門前まで同じ深さであつた。門前に中村恒夫君が兄さんと船を待つてゐたので一所に船を見つけて帰つた。国道は歩いて来られるさうである。父が帰つて来たので国道まで迎へに行つた。

夜田口先生と町へ買物に出掛け、薬品、其の他を買つて帰る。」



「公会堂」(現在の常陽銀行土浦支店の所にあつた。)多い時には2m余の水深を示したが、2~3日経つても写真のように60cm位残つていた。(『写真集(明治・大正・昭和)土浦』より)

《沿革誌》「川俣県会議員慰問並二病人診察ノ夕メ来校」

7月3日(日)曇

《沿革誌》「折角減水シツツアリシモ今朝ハ又増水ノ傾向アリ、憂慮又募ル知事巡視

避難所大消毒ヲ行ヒ、衛生上ノ注意ヲ話ス」

土浦中学は避難民でいっぱいになり、竣工式間近のプールは洗濯場となり、周囲の金網はおしめ【おむつ】の満艦飾となつていました。

《竹村》「今日も又曇つてゐる。毎日の曇りや雨であきてしまふ。」

父と二人で荷物を出して来た。家の中は見られたものではない。首までもつかりながら出すのだから容易な事ではない。飯は朝七時頃夕方六時の二回食べた。夕方町へ買ひ物に行き、衣服、其の他を買つて来た。

午後九時水は再び増して来て床上にのつた。」

高19回糸賀茂男の母、糸賀(旧姓福田)富美(土浦高等女学校2年)は、休校となり、東城寺の自宅で土浦の被災者を思いやりながら、7月3日の日記に次のように記しています。

「起きると又々大雨でした。……それにしては此上降つたら土浦等はどんなにかひどくなつてしまひ相【さう】です。これでは試験どころではなくなり、学校に残つた人達が二日間何も食へなかつたと聞いて気の毒でたまりませんでした。これでも私達は幸福に食べて居る事を思へば尚すまないと思ひました。諸先生や生徒の人々も避難の人の世話で大変でせう。すぐ行つて手伝ひたく思ひますがこの水はどうしようもなく本当に残念でたまりません。」

① 筑波山に地崩れ

坂東三十三観音霊場第25番札所筑波山大御堂も、この地崩れに押し流され崩壊した(本尊は奇跡的に無事であった)。現在の地に、1961(昭和36)年に仮堂が建てられ、2020(令和2)年3月、新本堂が竣工した。明治の廃仏毀釈から概ね150年、1938(昭和13)年からは概ね80年を経て、信者の長年の悲願が成就した。

② 公会堂



写真①



写真②

写真① 1878(明治11)年から新治郡役所として使用されてきた旧土浦城本丸御殿が、1884(明治17)年3月に全焼し、同年10月に焼け跡に建設された木造洋風の総2階建ての郡役所。本校は1897(明治30)年4月22日、この建物の2階で授業を開始した。

写真②

1913(大正2)年に新築された新治郡役所。この新庁舎は、正面には煉瓦積み立派な門を構えた近代的な建築であった。1923(大正12)年の郡制廃止により、「新治郡自治会館」となり、1932(昭和7)年、本丸から現在の常陽銀行土浦支店の位置に移され、「土浦公会堂」として利用された。戦後は、「新治地方事務所」「県南振興事務所」等に使われていたが、「県南合同庁舎」が新築され、そこへの移転に伴い解体された。